

稲作の基礎について V

J A 福岡市東部 営農生活課

I 水田の雑草について

田んぼには稲だけでなく、雑草が生える事があります。除草剤やジャンボタニシで発生をコントロール出来ている間は良いのですが、そううまく行く事ばかりではありません。

雑草が生えると、見かけが悪くなるだけでなく雑草に栄養分が取られるために穂につく籾の数が減りますし、風通しも悪くなるため病気も発生しやすくなります。

生えている雑草がヒエ等の場合、稲よりも早く出穂するヒエにカメムシが寄ってくる事となり、後から出てきた稲の穂にも加害し斑点米が多くなりますので、雑草が茂る=減収と思って間違い無いと思います。

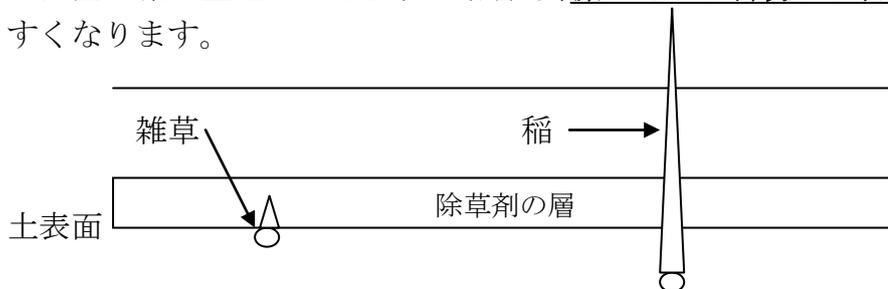
田植後 1 週間以内に除草剤を散布したのに草が枯れていない…そういった事があるかと思えます。なぜなのでしょう？

原因 I 除草剤の層が出来ていない

水田用除草剤は、主に除草剤の層をつくる事で効果があらわれます。

この層は、散布時に水の動きと共に動き、全面に層を作ります。ですから、散布時に水があまり無い場合には水の動きがあまり無いので拡がりにくい状態になりますし、田面が露出しているような場所にはそもそも除草剤の層が出来ていません。ですから、その部分に草が残る形となります。

田面に藻が生えているような場合も、藻があった部分には除草剤が行き渡らないため草が残りやすくなります。



雑草の種子は浅い所にあり、種子や発芽したばかりの弱々しい芽が除草剤の層に接する事で枯れます。稲は除草剤の層よりも下に植えつけられているため、除草剤の被害にあいません。

極端な浅植えや植え穴が戻りにくい圃場では、稲の種子等が除草剤の層に接する事になりますので、薬害が発生する場合があります。

原因 II 初中期一発剤のみの処理では雑草防除が困難な状況を有する田んぼ

①雑草の発生量が多い(1回で全て枯らす事は不可能ですので、中後期除草剤も使用して下さい)

②代かきから移植までの期間が長く、移植までに雑草の発生が見られる

(草が大きくなるに従って、薬剤に耐えて枯れない場合が増えてきます)

③クログワイやオモダカ等の難防除雑草の発生が見られる

(クログワイやオモダカは根塊をつくるため、生き残る場合があります)

④薬剤が拡がる前に水が落ちてしまう田んぼ(除草剤の袋には、3～4日湛水状態を保ち～と書いてあります。これは、均一な処理層が出来るまでの期間となります)

原因Ⅲ ノビエが残る場合

以前、稲作の基礎Ⅱ(過去の稲作の基礎は当JAホームページで閲覧出来ます)で説明致しましたが、水稻用除草剤にはヒエ〇葉期までと時期が書いてあります。

この表現が解りにくいのですが、ヒエが一定の大きさになるまでに散布しないと十分な効果が見込めませんという事を表していますので、下記表を参考に散布していただきたいと思います。

ヒエ葉齢	代かき後日数	当JAの稲作こよみに掲載している農薬
1葉期	4日	
1.5葉期	6日	
2葉期	8日	ショウリヨクジャンボ
2.5葉期	10日	パワーウルフ1K粒、エーワンジャンボ、サラブレッドKAI、ガンガン豆つぶ
3葉期	12日	
3.5葉期	15日	ポデーガードプロ1K粒
4葉期	20日	アトトリ1K粒(中後期除草剤)

2.5 葉期や 3 葉期の除草剤は、田植後 1 週間程度で散布する必要があります。

1 週間後が雨だったからといって、2 週間後に散布すると効果が劣ります。

あくまで、代かき後の日数になります。田植後の日数ではありませんのでご注意ください！

この時期を過ぎるとクリンチャーME液剤やアトトリ1キロ粒剤を用いる事になります(ジャンボタニシに食べて貰う方法もあります)が、他の除草剤同様、大きくなりすぎると枯れまじるので、早め早めの処理をお願いします。

除草剤に関してよくある質問

Q ジャンボ剤を撒いたら、風によって白い物が端に集まってきた。除草剤が効かないんじゃないか？

A その白い物は、成分が田んぼに拡がったあとの残りです。ジャンボ剤の中身を浮かせるための成分ですから、除草剤としての成分はほとんど残っていません。

Q ジャンボ剤・フロアブル剤・粒剤、どれが一番効果があるか？

A 効果的にはどれも違いが無い。と言いたいところですが、県北地域は水持ちが悪い田んぼが多いので、水面を伝って拡がってゆくジャンボ剤やフロアブル剤よりも、撒いてからほどなく拡散し土に吸着する粒剤の方が効果は安定していると言えます。